

2024年5月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 5月えんだより

5月の聖句「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい。」

ルカによる福音書5章4節

「やっと」「ようやく」「とうとう」やってきた入園、進級からはやひと月が過ぎました。進級を待ち望んでいた子どもたちにとっては「やっと」。育児休業から復帰される保護者のみなさんにとっては「ようやく?」「とうとう?」。様々な思いが複雑に絡み合っているのではないのでしょうか。入園当初に泣いていた子どもたちにとっては「とうとう」、いや、そのような気持ちを感じる間もなく、見も知らないところでの時間は……。ひと月が過ぎ、0歳児・1歳児の子どもたちの部屋からも「泣き声」よりも「笑い声」が随分多く聞こえてくるようになりました。「ここ、この人大丈夫だ。」子どもたちの表情からそのように感じられるようになったのかなと思う今日この頃です。

小学校入学から間もない頃、集団登校のグループに少し遅れてしまい、泣きながら母親に手を引かれ、半ば引きずられるように学校行くことが多かった長男。大学入学と共に古都で一人暮らしを始めたものの、なかなかアルバイトもできず、部屋にすることが多かったようです、そんな彼が就職先として選んだのは「営業職」でした。この変化のきっかけは、人生初のアルバイト体験にあったように思います。そのアルバイトとは、古都のある神社のお祭りの神輿行列で提灯竿を捧げて行列の先頭を歩くというものでした。そのアルバイトで地域の方々から「大歓迎」されたことが大きな転機となり、その後様々なことに挑戦し、新しい出会いと交わりを楽しんでいったようです。そのような体験から人と出会い、交わることができる「営業職」を選んだようです。「さあ！祭りに行こう！」神様（神違いですが）からのお導きだったように思います。

「さあ、こども園に来て、お友だちや先生たちと沢山遊んで、楽しみや喜びを心の中に蓄えていきましょう！」と子どもたちに。保護者のみなさんには「さあ、こども園に子どもたちを委ねて、自らの業に取り組んでいきましょう！」と保護者のみなさんに。「さあ、こども園で子どもたちや保護者のみなさん、そして、「仲間と手を携えて、共に歩んでいきましょう！」と職員に。神様からのお導きの声がみなさんの耳に、心にも届くことを願いつつ、子どもたち、保護者のみなさん、職員と共に新しい歩みを進めていきたいと思います。

5月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	だいじょうぶ	うごきだす
月の願い	*神さまに守られ、それぞれのペースで園生活に慣れていく。 *お祈りやさんびかに親しみ、心地よさを感じる。 *自然の音や色に気づいて触れていく。	*一人で、また保育者や友だちと一緒に好きな場所を見つけ、やりたい遊びに心を動かす。 *日常の中で神さまが創造された世界を感じ、感謝して祈る。 *風、土、虫の命を感じるなど、身近な自然の中で探求することを楽しむ。
讃美歌	「ことりたちは」 こども改10	「このはなのように」 こども改115